

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年改訂、その後の改訂も適用) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)河合塾学園名駅TSIT校舎移転計画	階数	地上8F
建設地	名古屋市中村区則武二丁目901番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,752 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2025年12月16日
敷地面積	1,389 m ²	作成者	
建築面積	1,007 m ²	確認日	2025年12月16日
延床面積	7,243 m ²	確認者	

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE=1.2 ★★★★★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p> <p>環境品質 C</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆</p> <p>30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法</p> <p>0 46 92 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3</p> <p>音環境 3.0 温熱環境 3.0 光・視環境 3.1 空気質環境 4.3</p> <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.5</p> <p>機能性 3.6 耐用性・信頼性 3.3 対応性・更新性 3.5</p> <p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.2</p> <p>生物環境 1.0 まちなみ・景観 3.0 地域性・アメニティ 2.5</p> <p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.9</p> <p>建物外皮の熱負荷 5.0 自然エネルギー 3.0 設備システム効率化 4.1 効率的運用 3.0</p> <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.0</p> <p>水資源保護 3.0 非再生材料の使用削減 2.8 汚染物質回避 3.8</p> <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9</p> <p>地球温暖化への配慮 3.8 地域環境への配慮 2.5 周辺環境への配慮 2.4</p>

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
老朽化した既設建物の別敷地建て替えにあたり、学生、職員に対しての快適な学習・就業環境の向上を図る。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
教室の学習環境向上のため、天井高さをできる限り高く計画。騒音が発生する室内機を天井内に収めた。	各階にゆとりある便所を計画するほかに、多機能便所を複数箇所設置。 教室と共用部は内装計画、照度・色温度を異なる計画とし、用途に合わせた内装、照明計画とした。 内装材は大半を塗装とし、メンテナンス性に配慮した。 5階のバルコニーは防鳥ネットを配し、鳥害に配慮した。	敷地内には敷地面積の10%以上の緑地を整備。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BEI=0.79とし、約20%の省エネルギーを計画。	有害物質を含まない材料の採用を行った。	駐車場入口を大通り側ではない接道に計画し、周辺の道路渋滞に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)河合塾学園名駅TSIT校舎移転計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	4.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.9
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.7



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。